

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	寄生虫検査学1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期 月曜日3.4限	教室名	901 902
担 当 教 員	寺本 勲	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 生き物としての寄生虫を理解させる。寄生虫が生存する上で宿主との相互関係は必然的に存在する。その関係を知ることにより、病原性との関連を理解させる。また、寄生虫症は感染症で、虫はその生活史の中で特別な時期にのみヒトに感染することを理解させる。さらに、寄生虫症の診断治療の基となる検査法を理解し実行できる様にする。 世界における寄生虫症の惨状を知ることにより寄生虫性疾患の重要性を理解させる。						
《成績評価の方法と基準》 出席および筆記試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 医動物学 最新版 吉田幸雄・有菌直樹・山田稔 著 南山堂 および プリント						
《授業外における学習方法》 教科書を読み込む事。 寄生虫症、感染症、途上国の衛生状況等のキーワードで取得できる事柄に興味を持つ事。						
《履修に当たっての留意点》 日本で生活している限りにおいて、寄生虫症との関わりは限定されているので、学生諸氏においては常識としての知識が少ない。教科書をよく読み、理解して下さい。教員はその助けをします。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	寄生虫学総論(用語の意味を理解する)、蠕虫類総論(分類、生殖等を理解する)	教科書	配布資料の確認	
	講義形式	各コマにおける授業予定	寄生虫学総論(寄生とは、日本における寄生虫症・世界における寄生虫症)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	寄生虫学総論(用語の意味を理解する)、蠕虫類総論(分類、生殖等を理解する)	教科書	配布資料の確認	
	講義形式	各コマにおける授業予定	・蠕虫類総論(分類・生活史と感染による病態の概要)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	線虫類の生活史、症状、検査・診断法を理解する(1)	教科書	配布資料の確認	
	講義形式	各コマにおける授業予定	・回虫および回虫類(ヒト固有の種、ヒト以外の動物固有種の存在)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	線虫類の生活史、症状、検査・診断法を理解する(1)	教科書	配布資料の確認	
	講義形式	各コマにおける授業予定	・鞭虫・蟯虫・鉤虫			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	線虫類の生活史、症状、検査・診断法を理解する(2)	教科書	配布資料の確認	
	講義形式	各コマにおける授業予定	・糞線虫・糸状虫			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	線虫類の生活史、症状、検査・診断法を理解する(2)	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・幼虫移行症(ヒトを非固有宿主とする寄生虫の感染、ヒトを中間宿主とする種の感染)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	扁形動物(吸虫類・条虫類)の生活史、症状、検査・診断法を理解する	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・肝吸虫、横川吸虫、肝蛭、住血吸虫類		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	扁形動物(吸虫類・条虫類)の生活史、症状、検査・診断法を理解する	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・条虫類総論、日本海裂頭条虫、有鉤条虫、無鉤条虫、単包条虫、多包条虫		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習1 蠕虫類検査・診断のための形態観察, 検査手法の習得	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	寄生虫検査は現在でもその形態を元に診断する事が多い。診断のための形態の確認と検査手法を実習により学び、修得する		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習1 蠕虫類検査・診断のための形態観察, 検査手法の習得	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	寄生虫検査は現在でもその形態を元に診断する事が多い。診断のための形態の確認と検査手法を実習により学び、修得する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	原虫類総論(単細胞生物である病原性原虫類の生物学的特性、生理・生殖および病原性を理解する)	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・単細胞真核生物としての原生動物(原虫)を概説する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	原虫類総論(単細胞生物である病原性原虫類の生物学的特性、生理・生殖および病原性を理解する)	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・原虫類の病原性について、その成り立ちを理解する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	原虫類各論(1)(各原虫の生理・生殖、病害、検査法等を理解する)	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・アメーバ類		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	原虫類各論(1)(各原虫の生理・生殖、病害、検査法等を理解する)	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・ランブル鞭毛虫、トリパノソーマ類		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	原虫類各論(2)(各原虫の生理・生殖、病害、検査法等を理解する)	教科書	配布資料の確認
		各コマにおける授業予定	・孢子虫類総論		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	寄生虫検査学1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期 月曜日3,4限	教室名	901 902
担当教員	寺本 勲	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>生き物としての寄生虫を理解させる。寄生虫が生存する上で宿主との相互関係は必然的に存在する。その関係を知ることにより、病原性との関連を理解させる。また、寄生虫症は感染症で、虫はその生活史の中で特別な時期にのみヒトに感染することを理解させる。さらに、寄生虫症の診断治療の基となる検査法を理解し実行できる様にする。</p> <p>世界における寄生虫症の惨状を知ることにより寄生虫性疾患の重要性を理解させる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席および筆記試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
医動物学 最新版 吉田幸雄・有菌直樹・山田稔 著 南山堂 および プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込む事。 寄生虫症、感染症、途上国の衛生状況等のキーワードで取得できる事柄に興味を持つ事。						
《履修に当たっての留意点》						
日本で生活している限りにおいて、寄生虫症との関わりは限定されているので、学生諸氏においては常識としての知識が少ない。教科書をよく読み、理解して下さい。教員はその助けをします。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	原虫類各論(2)(各原虫の生理・生殖、病害、検査法等を理解する)	教科書	配布資料の確認	
		各コマにおける授業予定	・マラリア原虫、トキソプラズマ、クリプトスポリジウム、等			
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習2 原虫類検査・診断のための形態観察、検査法手技の習得	教科書	配布資料の確認	
		各コマにおける授業予定	寄生虫検査は現在でもその形態を元に診断する事が多い。診断のための形態の確認と検査手法を実習により学び、修得する			
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習2 原虫類検査・診断のための形態観察、検査法手技の習得	教科書	配布資料の確認	
		各コマにおける授業予定	寄生虫検査は現在でもその形態を元に診断する事が多い。診断のための形態の確認と検査手法を実習により学び、修得する			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	衛生動物学総論および各論	教科書	配布資料の確認	
		各コマにおける授業予定	・感染症を媒介する動物(吸血動物)			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	衛生動物学総論および各論	教科書	配布資料の確認	
		各コマにおける授業予定	・毒を持つ有毒動物、不快動物 等			